

所 属・職 位	医学部医学科救急医学講座・教授	
氏 名	安部 隆三 (Abe Ryuzo)	
取 得 学 位	博士 (医学)、千葉大学、2006年3月	
SDGs 目標	3 すべての人に健康と福祉を 9 産業と技術革新の基盤をつくろう 11 住み続けられるまちづくりを	

研 究 分 野	救急医学, 集中治療医学
研究キーワード	敗血症, 心肺蘇生, 臓器不全, 血液浄化法, 体外式膜型人工肺 (ECMO), 人工肝補助療法
研 究 内 容	1) 【敗血症の病態と治療】 敗血症の重症化における各種サイトカイン動態の関与, サイトカイン関連遺伝子多型の転帰への影響, 血中サイトカイン吸着除去の臨床効果に関する研究を行っている。 2) 【心肺蘇生と蘇生後治療】 心拍再開後の蘇生後脳症の転帰を予測するバイオマーカーに関する研究, 低体温療法による心停止後症候群の制御に関する研究, 体外循環を用いた心肺蘇生 (Extracorporeal cardiopulmonary resuscitation: ECPR) に関する臨床研究, 院内急変対応 (Rapid Response System) 活動データを用いた臨床研究を行い, 研究代表者として科学研究費を取得してECPRの研究を進めている。 3) 【ECMO (Extracorporeal membrane oxygenation, 体外式膜型人工肺)】 新型コロナウイルスパンデミック以前から基礎実験・臨床研究を行い, ECPRに関する臨床研究, ECMO回路構成に関する基礎実験, ECMOチーム活動の臨床効果について報告している。また日本ECMOnetの立ち上げに参加し, COVID-19に対するECMO治療や日本ECMOnetの活動に関して報告している。 4) 【急性肝不全に対する人工肝補助療法】 血液浄化法を用いた人工肝補助療法によって肝性昏睡からの意識覚醒が得られることを報告し, 現在, 厚生労働科研「難治性の肝・胆道疾患に関する調査研究班 (劇症肝炎分科会)」にて更に研究を進めている。 5) 【病院前救急医療】 日本医療研究開発機構 (AMED) 研究課題「救急の現場にて傷病者が早く正しい医療を受療できる技術開発プロジェクト」「救急医療予測アルゴリズム研究開発」に研究開発担当者として参加, 新たな救急システム開発を進めている。
研 究 業 績・アピールポイント	● Higashi A, et al. Shortening of low-flow duration over time was associated with improved outcomes of extracorporeal cardiopulmonary resuscitation in in-hospital cardiac arrest. <i>J Intensive Care</i>. 2020; 8:39 ● Japan ECMOnet for COVID-19. Nationwide system to centralize decisions around ECMO use for severe COVID-19 pneumonia in Japan (Special Correspondence). <i>J Intensive Care</i>. 2020; 8:29. ● Fujiwara K, et al. High recovery rate of consciousness by high-volume filtrate hemodiafiltration for fulminant hepatitis. <i>Hepatol Res</i>. 2019; 49: 224-231 ● Hayashi Y, et al. A prehospital diagnostic algorithm for strokes using machine learning: a prospective observational study. <i>Sci Rep</i>. 2021; 11:20519. ● 基盤研究(C)「ECPR症例における神経学的予後予測バイオマーカーの網羅的探索に関する研究」2020-2022年度 ● 厚生労働科学研究費補助金「難治性の肝・胆道疾患に関する調査研究」班, 2020-2022年度 ● 日本医療研究開発機構(AMED) (先進的医療機器・システム等技術開発事業基盤技術開発プロジェクト)「救急医療予測アルゴリズム研究開発」, 2019-2022年